

パネル・ディスカッション：成長する社会的インパクト投資への需要と金融機関の役割

2/19 10:40-12:00

株式会社三井住友銀行 常務取締役 工藤禎子氏

Morgan Stanley Institute for Sustainable Investing 共同代表 ヒラリー・アーバイ氏

モデレーター：一般社団法人 C4 代表理事 ザビエル・アーノド



※左からザビエル・アーノド氏、ヒラリー・アーバイ氏、工藤禎子氏

2月19日(月) 10:40より、パネル・ディスカッション「成長する社会的インパクト投資への需要と金融機関の役割」が開催された。モデレーターは、一般社団法人 C4 代表理事 ザビエル・アーノド氏。パネリストは、株式会社三井住友銀行常務取締役 工藤禎子氏と、Morgan Stanley Institute for Sustainable Investing 共同代表 ヒラリー・アーバイ氏だ。

このセッションでは、主要な機関投資家や金融機関がインパクト投資や ESG 投資などに取り組むという、いまファイナンスの世界でまさに起きている革命の中、インパクト投資の市場をさらに拡大させるために、大手金融機関の三井住友銀行や Morgan Stanley がインパクト投資をどのように見ているのか、そのリスク・リターンの考え方、商品開発や投資判断、クライアント・エンゲージメント戦略などについて、パネル・ディスカッション形式で話された。

まずは、工藤氏とアーバイ氏より、各会社のインパクト投資に関する取組について紹介があった。工藤氏より、国内初の本格的な SIB への取組として、神戸市と社会的投資推進財団

の案件の紹介や、その他社会的インパクト投資のマーケット創出を目指して行われている取組について紹介があった。また、金融機関の役割として、プロジェクトの信頼性を挙げる取組、資金調達、ネットワークの活用／場の提供を挙げていた。アービー氏より、Morgan Stanley のサステナブル投資について紹介があった。また、サステナブル投資を行うために必要なアイデアやソリューションの提供のため、Thought Leadership やキャパシティブルディングにも力を入れている。

パネル・ディスカッションでは、まず各金融機関におけるチャレンジや挑戦について触れられた。アービー氏は、サステナブル投資についてのビューが人によって異なること、サステナブル投資が本当にポジティブなインパクトをもたらすのか理解してもらうこと、理解してもらうために急ぎすぎない心がけが必要であること、などを挙げていた。工藤氏は、ボトムアップで社会的インパクト投資をスケールさせるために、社内外の巻き込みが大きなチャレンジとなると話した。

その後も、組織としてインパクト投資への懐疑的な見方に対してどのように対応したのか、トップ・マネジメントからのインパクト投資に関するメッセージ、クライアントの需要について、キャパシティブルディングやエコシステム作りについて、などについて触れられた。

最後に、インパクト投資の市場をさらに拡大していくために、どのようなことを取り組む必要があるかについて、アービー氏は、インパクト投資のポジティブな面・ネガティブな面、またその機会や脅威について理解してもらうこと、アウトプットではなくアウトカムに注目することなどを挙げた。また工藤氏は、インパクト投資のバラエティを増やすこと、ガイドラインや案件の信頼性を高めるための手法などについて挙げられた。

以上